令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390500122		
法人名	株式会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 ①		
所在地	〒025-0002 岩手県花巻市西宮野目第13地割121-2		
自己評価作成日	令和3年9月16日	評価結果市町村受理日	令和3年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『一人一人の利用者に、できることをやっていただく』という理念をもとに、一人ひとりに役割を持っていただき、日々刺激のある生活を送れるよう支援している。全体目標、個人目標を掲げ、目標達成できるよう職員一人ひとりが意識して取り組んでいる。かかりつけ医・訪問診療と連携、必要に応じては通院時の付き添いを行い、体調管理に努めている。月1回のお便りを写真付きで作成し、家族様へ状況報告をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市内西宮野目地区にある平屋建て2ユニットの事業所である。理念に基づき、利用者一人一人の機能や状況に応じた支援が行なわれるよう、事業所の目標、個々の職員の目標を定め、ケアに取り組んでいる。管理者は、職員の気づきを大切にし、コミュニケーションの確保に努め、職員の資質向上、リーダーシップの育成に尽力している。利用者支援を行なう上で、現状に満足することなく、コロナ禍にあってもできることを確実に行い、解決に向けて取り組む姿勢ができている。利用者の家族への担当職員によるお便りの送付、選択できる食事やおやつ（弁当の日、和菓子の日等）の実施など工夫されている。かかりつけ医や訪問看護師、訪問歯科等、医療との連携も円滑に実施されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の利用者に、できることをやっていただく」という理念を共有し、実践できるよう日々努力している。	会社の理念とは別に、事業所の理念を「一人ひとりの利用者に、できることをやっていただく」と定め、利用者の役割を持つ、見つけることを目標として支援している。別に、事業所の今年の目標を職員全員が提出し、話し合って決めている。各職員も個別目標を立てて業務にあたっている。	毎年、事業所の年間目標を決め、また職員個々の個人目標をたてて業務に取り組み、目標の中間評価の仕組みもあり、利用者へのサービス向上に努力されている。今後も、このような取り組みを継続されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑づくり等については地域の方にお手伝いして頂いているが、現在はコロナの影響もあり、地域との交流はほとんど出来ていない。	町内会に加入し、会議や清掃などの行事に参加している。ここ1,2年コロナ禍で総会や行事が休止しており、地域との交流が出来ないでいるが、散歩しているときに野菜の差し入れを頂いたり、畑作りに地域の方が来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献になっているかは不明。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで会議がしずらい状況ではあるが、会議が行われた際は会議での意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、昨年は1回、今年は5月、7月に開催しており、次回は10月を予定している。委員は、家族、地域の方、行政関係となっているが、利用者の参加が課題となっている。議事録は委員の発言どおり記入していたが、個人情報に触れることも考え、市の指導によりまとめた形にしている。前回の会議の課題について、次回検討経過と結果を報告している。	会議は、委員から率直な意見提案がなされ、実現に向けて職員が努力されていることが窺われる。委員は基準省令第85条にメンバーに利用者、利用者家族とあることから、今後利用者の参加を検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会にてケアサービスについて報告している。また、参加してしていただいた方から情報や意見をいただいている。	運営推進会議に担当課職員や地域包括支援センターの職員が参加し、会議の後など、情報交換や指導助言をいただいている。市との連携に特段の支障は無く、双方にとって有用な協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、ケアに取り組んでいる。	運営推進会議の委員を兼ねる身体拘束適正化委員会の委員に、身体拘束に当たる事例について報告することとしている。研修は、所内の学習係が担当し、年2回は身体拘束に関する内容となっている。立ち上がりや歩行不安定な方の居室に、家族の了解を得て人感センサーを設置している。玄関にも設置している。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待のないよう日々防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がないので、まずは制度について勉強し、理解する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時や契約時には十分な説明をし、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と連絡を取り、意見や要望を運営に反映させている。	コロナ禍で、家族の面会は減少しており、家族が通院に同行する際に要望等を聞いたり、運営推進会議でも意見を聞いている。利用者毎に、各担当者が記名して日々の生活状況を写真・伝言入りのお便りで送付しており、レクリエーション参加時の表情や通院状況が伝わるものとなっている。電話で連絡を取りにくい家族には、手紙などで対処しているが、緊急時の対応などは検討課題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のスタッフ会議で反映されている。	毎月のスタッフ会議は担当者を決めており、事前に意見を集めた上で話し合いしている。最近の会議では、コロナ対策として玄関での面会を検討している。ケアカンファレンスは不定期で、問題のある事例の検討が中心になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合った研修への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加により、同業者との交流する機会はあるが、中止になるものもあり、それほど多くは交流できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞き、安心して生活できるよう、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談において、家族の要望を聞き、入居後のケアに繋げれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度、より良いケアを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をしているという事を忘れず、入居者様が出来ることは行って頂く等、共に過ごし支え合える関係を作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月１回のお便りにて日頃の様子を報告している。また、来所時にも様子を伝えたりしている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援したいと思うが、人員や介護度が高くなってきており、なかなか難しい状況である。	近隣からの利用者は少なく、馴染みの場所への訪問などは難しい。コロナ禍で、親戚や友人の訪問もない状態が続いている。床屋さんやマッサージ師の方が馴染みの関係になっている。盆の帰宅者は一人だけで正月に帰宅した方はいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格をきちんと理解し、食事席の場所等を検討し、交流できるような環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があればフォローし相談や支援に努めたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報を共有し、一人ひとりの意向の把握に努めている。	居室担当者は、家族との連絡や受診の付き添い、利用者個々のお便り作成等、日々の暮らしの中で、利用者の思いを汲み取り、個別記録に記載し職員間で共有している。利用者の意向や気づいた事柄を介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の入居前の情報を元に、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録への記入を行い、職員間で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、それに基づいて介護計画を作成してる。	介護計画は、利用者全員の直近の計画を1冊にし、職員全員が共有している。介護度の変わるタイミングが大事であることから、認定調査時には家族に同席してもらい、意見要望を聞いている。居室担当者がモニタリングし、他の職員の意見を踏まえ計画作成担当者が計画を作成している。計画は、家族に説明し了承を得ている。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い、情報共有しケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合った支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・訪問診療と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医への通院は家族同行が原則であるが、家族が遠方に居住していたり、高齢などで困難な場合は職員が付き添っている。月1回訪問診療があり、歯科は往診を利用し、医療との良好な関係が築かれている。訪問看護師も毎週1回来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定。体調の変化があった際は、看護師や訪問看護に相談し、適切なアドバイスをいただき、ケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーの作成をし、情報交換できている。また、退院時はカンファレンスに参加し、退院後のケアに繋がる情報を得ている。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望・主治医の指示に従い、ケアに取り組んでいる。	看護師1名を配置しており、重症化した場合、家族の希望により看取りを実施している。管理者は外部の研修に参加し、その内容を職員に伝えながら、支援の体制を整えている。急変等に供え、全職員の研修を実施していきたい。	重度化や終末期、急変時の対応について研修の機会を設け、一人一人の職員の資質を高めるとともに、かかりつけ医、訪問看護師等がチームとなって支援されることを今後も期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っておらず、十分に身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一部の職員は身に付けているが、全職員が身に付けているとは言えない。	事業所は、瀬川の直近に位置しているが、市のハザードマップ上で水害危険地域には指定されていない。市や消防に発災時の支援を要請したが、自力で避難できる体制を整備しておくように助言されている。本社では、川の橋脚に遠隔監視カメラを設置し、必要時監視する仕組みを導入している。	これまで、夜間の避難訓練を実施していないことから、夜間に、30秒間消灯したり車椅子で外に出るなど、暗い状態での避難訓練を実施し、課題を抽出しその対応を検討されることを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努めているが、プライバシーに欠ける場面も多々見られる。	理念に基づき、利用者がその人らしい暮らしができるように支援するよう努めている。そのため、プライバシーの確保を最優先とし、ケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者様の希望に添うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様一人ひとりのペースに合わせて支援するようにしているが、希望に添えないことも多々ある。		

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・月1回の床屋の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みは把握できていないが選択メニューの日等は自身が食べたいものを選んで頂いている。食事の準備は一緒には出来ていないが、片付けは入居者様にも手伝って頂いている。	月1回弁当の日を設け、3種類程度の中から選んでもらっている。カツ丼が好評である。和菓子の日、フルーツの日も設けている。マツタケご飯、芋の子汁等、季節の食事を楽しんでいる。食形態は、普通食、刻み、おかゆ、液状の濃厚流動食経腸栄養剤等個々の機能に合わせ提供し、口から摂取することを維持している。利用者は、調理には参加できないが、下膳、食器拭きを役割とし積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し、一人ひとりに合った量・食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。自身で行うのが困難な場合はお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう、定時の声掛けをし、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を支援している。おむつ、リハビリパンツ、尿取りパット併用と、一人一人の機能に合わせた排泄用品を検討し使用している。歩行に不安がある方が、本人の希望で夜間のみポータブルを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用。毎日ヤクルトの提供。また便秘時は牛乳等の乳製品の提供をして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日については職員の都合になっているが、入りたくない等の訴えがあった際は無理に入浴をすすめず対応している。	週2回入浴しており、希望で1日おきの利用者もいる。入りたくないと意思表示した際は無理強いせず、声掛けを工夫し、シャワーなどで対応している。同性介助を希望する方には配慮している。身体の観察で心配なことがある場合には、看護師に相談し適切に対応している。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感があるようなら静養していただく等、体調に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクの提供をしている。一人ひとりに合った気分転換の方法や楽しみをコミュニケーションの中で見つけていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今の状況では実践できていない。	コロナ禍で、外出は困難である。建物の構造上、玄関に近い2号館が1号館より散歩に出やすく、事業所周辺を散歩している。買い物の希望もなく、外に出るため様々工夫して声掛けし、花見などの季節のドライブを出来る限り実施している。避難訓練の意味も含めて、外出支援に努めたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない為、使えるような支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が有れば電話対応している。手紙のやり取りはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った展示物などをして季節感を取り入れている。	共有空間は明るく清潔に保たれ、温度管理も適正に実施されている。壁面は、季節の飾りつけがされ、食卓・椅子、テレビ、ソファーが配置されている。職員と風船バレーに興じたり、会話をしている様子を観ることができた。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 宮ノ里 ①

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所は居室しかないが、ソファーを置き、くつろげる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、以前から使用していたものを持ってきていただき、使い慣れたものを置いている。	入居時に使い慣れたものを持参し、本人や家族が、今までの暮らしに配慮した配置としている。絵画や家族の写真を掲示している。寝具や衣装ケースを新しく購入される方もいる。職員は、必要に応じて支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名札をつけ、自分の居室が分かるようにしている。手すりの設置・段差もなく安全な環境づくりをしている。		